第６学年 特別の教科 道徳学習指導案（略案）

令和２年１１月１３日（金）
第５校時　６年１組教室
第６学年１組　３７名

１　主題名　「れいぎ正しさ」　◇内容項目：B（主として人との関わりに関すること）礼儀

２　教材名　「人間をつくる道　―剣道―」（『小学校道徳　読み物資料集』文部科学省）

３　目標（ねらい）　時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること
「礼に始まり礼に終わる」という、相手を敬い、尊敬する気持ちを示すことの意義を考え、礼儀正しく真心をもって接しようとする態度を養う。

４　評価の視点

勝敗のみにこだわった「ぼく」が、「礼に始まり礼に終わる」という、相手を敬い、尊敬する気持ちを示すことの意義について考えたことを通して、礼儀正しく真心をもって接しようとする態度について、考えを深めることができたか。

〇相手を敬い尊重する心を育てる態度の大切さに気づいているか。　＜道徳ノート・発言＞

〇形だけでなく、心が伴ってこそ人間としての「礼儀正しい振る舞い」となることに気づいているか。　＜道徳ノート・発言＞

５　本時の学習指導（全１時間中の第１時）

（１）目　標

「礼に始まり礼に終わる」という、相手を敬い、尊敬する気持ちを示すことの意義を考え、礼儀正しく真心をもって接しようとする態度を養う。

（２）展　開

○主な学習活動　・予想される児童の反応	・指導・支援　＊資料　◇評価（観点・方法）
○礼儀について考える。	・事前に「礼儀正しい」とは、どのようなことかを、アンケートにより調査し、集計結果を提示する。
・「礼儀正しい」人を見たとき、どんな気持ちになりますか？	
・スッと爽やかな気持ちになる。 ・素敵に思える。 ・気が引き締まり、背筋が伸びる。 ・カッコつけて、なんかイヤ。	・数名を指名し、「礼儀正しい」人の姿を、気持ちよく感じていることに気付かせる。 ・「礼儀正しさ」を‘恥ずかしい’と感じる児童の思いも尊重する。
○教材「人間をつくる道―剣道―」を読んで考え、話し合う。	・デジタル教科書により、範読を聞かせる
・厳しい稽古の中、「ぼく」は「礼」に対して、どのように思っていたのでしょうか？	
・早く剣道が上手く強くなりたい。 ・剣道の技術に関係ない。 ・面倒臭いなぁ。	・競技（剣道）への憧れが強く、礼や道に対してはたして「必要なのか？」という思いであったことを押さえる。 ＊『引き上げ』の動画を視聴させる。
・『引き上げ』を先生に叱られたとき、「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょう。	
・先生は、何を怒っているんだ。 ・負けて面白くないのに、もっとイヤだ。 ・恥ずかしい。 ・子どもだからいいじゃないか。	・試合に負けたことでいっぱいで、礼法など眼中にない「ぼく」の気持ちに触れさせる。 ・大人の試合を見て感じた気持ちの違いについても考えさせる。
・「人間をつくる道…か。」という「ぼく」は、どんなことに気づき始めているのでしょう。	
・試合のことしか考えてなかった。 ・勝ち負けや技術のことだけじゃなく剣道としての礼（立ち居振る舞い）も大切なんだ。 ・日本人として「礼」（武道）を大切にしたい。	・礼儀正しい（武道の）振る舞いによって清々しさが感じられることに気づかせる。 ・「礼」とは、相手に対する尊敬する心の現れだということを大切にさせる。 ◇相手を敬い尊敬する心を育てる態度の大切さに気づいているか。（道徳ノート・発言）

○「礼儀正しさ」について考える。 ・「礼儀正しさ」とはどんなことか、学んだことや考えたことをまとめましょう。	
○担当教員の話を聞く。 ・柔道と JUDO についての話。 ・先日行われた「狂言」和泉流の作法、昨年度行われた「殺陣」の動きなど、『伝統芸能鑑賞（体験）教室』や「茶道」（伝統文化クラブ）のことにも触れる。	・今までの生活を振り返り、「礼儀」と思っていた行為が心のこもったものだったか思い直させる。 ◇形だけでなく心が伴ってこそ「礼儀正しい立ち居振る舞い」であることに気づいているか。 （道徳ノート・発言） 研究との関わり 実生活の中で繰り返し取り組める主題の設定 【自ら活動に取り組む】